

トピックス（令和6年度）

1 新しい研究の話題：

「振動を活用したトマトの総合的病害虫管理技術の開発」

トマトのウイルス病を媒介するタバココナジラミは、薬剤抵抗性の発達が問題となっており、化学農薬に依存しない防除技術が求められています。このため、昆虫が振動に敏感な習性を利用し、トマトを株ごと振動させることでタバココナジラミの密度を抑止する技術の確立に取り組んでいます（病害虫部）。



写真 トマト株を振動させ、タバココナジラミの吸汁を阻害

「カキ「秋王」の冷蔵向け自動選果技術の確立」

県では10月に収穫するカキ「秋王」を年末・年始まで長期保存する技術を開発しましたが、一部、貯蔵中に軟化して本品種の特徴であるサクサク感がなくなる果実が発生しており、選果の段階で識別する技術が求められています。このため、既存の自動選果機を利用し、果実の外観から貯蔵に適した個体を判別する技術の確立に取り組んでいます（流通技術部）。



写真 カキの自動選果機

「コムギ黄斑病の効率的な防除対策の開発」

近年、コムギ黄斑病の発生が増加していることから、発病程度と収量や品質との関係について検討しています。併せて、本病に対して効果の高い殺菌剤や防除適期について検討中です（病害虫部）。



写真 コムギ黄斑病の多発圃場

2 成果の活用事例

「高品質な八女伝統本玉露生産に適した被覆管理モデル」

八女伝統本玉露の被覆管理は、生産者の経験や勘で行われており、各農家間で品質差が大きいことが課題でした。そこで、茶芽生育と環境データを基に「被覆管理モデル」を確立しました。この技術は、八女伝統本玉露生産農家の約8割に普及しており、品評会での上位入賞に貢献しています（八女分場）。



写真 寒冷紗による追い掛け風景

「少花粉ヒノキコンテナ苗の生産者講習会を開催」

少花粉ヒノキとは、その名のとおり「花粉が非常に少ない」特徴を持った樹で、花粉症の発生源を減らす対策として期待されています。その生産効率を高めるために、根鉢のまま出荷可能なコンテナ苗の育苗技術を開発しました。本技術を活用することで、挿し木から3年でコンテナ苗を出荷できます。昨年に引き続き、生産講習会を通じて技術の共有と向上に努めています（森林林業部）。



写真 少花粉ヒノキコンテナ苗(右下)の穂づくりをする生産者

3 表彰

令和6年度福岡県職域表彰 グッドパフォーマンス賞（総務部長表彰）

園芸振興課、筑後農林、八女普及指導センター、農林試八女分場

「第77回全国お茶まつり福岡大会の開催及び八女茶の認知度向上への取り組み」

八女茶発祥600年の節目である令和5年に、全国お茶まつり、全国茶品評会を福岡で開催するにあたり、関係機関とともに参画し、八女茶の認知度向上に取り組みました。その活動が評価され、職域表彰として、総務部長賞を受賞しました。

令和6年度日本きのこ学会第27回大会 最優秀賞（ポスター発表の部）

バイオマス部 中田 富美 主任技師

「エノキタケ Thaumatin-like protein 遺伝子のトリコデルマ耐病性への関与」

エノキタケ Thaumatin-like protein 遺伝子が、きのこ類の害菌であるトリコデルマ属菌に対する耐病性への関与が示唆されたことをポスター発表し、最優秀ポスター発表賞を受賞しました。



令和6年度全国林業試験研究機関協議会 第37回研究功績賞

バイオマス部 森 康浩 専門研究員

「福岡県の特用林産物振興に関する研究」

タケノコの豊凶差が拡大した要因を解明し、同皮の堆肥としての利活用方法を確立するとともにブナシメジの高温性品種を育成した功績を表彰されました。



令和6年度公益財団法人日本植物調節剤研究協会 植物調節剤功労者表彰受賞

農産部 石塚 明子 専門研究員、筑後分場 岩淵 哲也 専門研究員

「水田作における植物調節剤に関する研究」

普通作物の除草剤や植物調節剤の発展、特に適応試験や普及啓発に貢献した功績を表彰されました。



令和6年度園芸学会 九州支部賞進歩賞

果樹部 藤原 菜々子 技師、松下 竜一 主任技師、企画部 瀬戸山 安由美 主任技師
福岡普及指導センター 古澤 典子 主任技師

「ナシ新品種「玉水」のV字ジョイントによる早期成園化および省力・軽労効果」

ナシ新品種「玉水」のV字ジョイント整枝技術の開発によって早期成園化と省力化が図られ、「玉水」の普及推進に貢献したことが表彰されました。



写真 玉水のV字ジョイント整枝



令和6年度福岡県職員表彰（研究表彰）

園芸振興課 渡邊 辰彦 四宮 亮、企画部 瀬戸山 安由美、苗木・花き部 松本 和紀
「赤ナシ新品種「玉水」の育成と早期普及のための苗木育成技術の開発」

ナシ新品種「玉水」の育成と、早期普及を可能にする苗木育成期間短縮技術の開発が表彰されました。



令和6年度日本土壌肥料学会 九州支部技術賞

果樹部 藤富 慎一 果樹部長

「農耕地土壌における肥料成分の溶脱とその機構に関する研究」

福岡県内の露地野菜畑における肥料成分の動態を明らかにし、環境に配慮した施肥技術を開発したことが表彰されました。



令和6年度園芸学会 九州支部学術賞

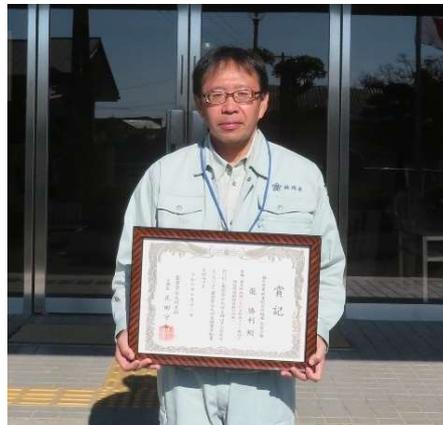
筑後分場 龍 勝利 専門研究員

「寡日照地域における促成トマト栽培の施設環境制御技術の開発」

冬季が寡日照条件である本県の促成トマト栽培において、日中加温や熱交換換気などにより、商品果収量が増加し果実品質が向上することを実証した功績を表彰されました。



写真 害虫防除捕集機によるチョウ目害虫の物理的防除風景



令和6年度九州農業食料工学会賞

筑後分場 井手 治 分場長

「園芸作物栽培の高度化技術の研究」

本県の主要な野菜品目に関する省力化、環境保全型、高品質多収栽培の新技术を開発して実証し、九州全域への波及に貢献した功績を表彰されました。

